

C. そ の 他

I プロジェクト研究

関係各位の協力のもと、平成3年度から所内各部が横断的に調査研究に取り組むプロジェクト研究の制度が発足している。

平成7年度は平成9年度までの3ヶ年間の予定で「未規制環境汚染物質に関する調査研究」をテーマとして取り上げている。

サブタイトルは次の4題である。

- (1) 県内主要海域における有機スズ化合物の濃度分布及び季節変動調査
- (2) 県内産養殖及び近海魚介類の有機スズ化合物含有実態調査
- (3) 廃棄物処理における有機スズ化合物の環境汚染への影響調査
- (4) 有機スズ化合物における微生物に対する影響調査

Ⅱ 第14回 研究発表会

日 時 平成8年2月23日(金) 9:30~14:45
 場 所 宮城県保健環境センター大会議室
 主 催 宮城県保健環境センター

— 研 究 発 表 —

○印 発表者

座長 佐藤 信俊 (大気部)

9:45~10:15

1. 有機溶剤使用事業場の悪臭実態調査結果

大 気 部 ○新垣 康秀 高橋 剛 高橋 克壽

2. 環境ガンマ線線量率測定に影響を及ぼす要因

原子力センター ○菊地 秀夫 安藤 孝志 嵯峨 京時 森 泰明

座長 小葉松 英行 (大気部)

10:15~10:45

3. 古川自動車排気ガス測定局のSPM高濃度現象について(第1報)

大 気 部 ○榎野 光永 末永 紳一 佐藤 信俊 高橋 克壽

4. 環境大気中の二酸化硫黄濃度の異常上昇について

大 気 部 ○末永 紳一 榎野 光永 佐藤 信俊 高橋 克壽

座長 阿部 時男 (環境衛生部)

10:45~11:15

5. 宮城県内における酸性雨の地域特性について(第5報)

大 気 部 ○大倉 靖 斎藤 善則 鈴木 壽雄 小野 研一

5. 七ヶ宿ダム上流域の河川水質特性

水 質 部 ○清野 茂 金野 由之 濱名 徹 栗野 健 遠藤 哲男

座長 佐藤 勤 (理化学部)

11:15~11:45

7. 畑地に散布された殺虫剤フェニトロチオンの挙動について

水 質 部 ○柳 茂 高橋 正弘 佐藤真貴子 野村 保 (環境政策課)
 小笠原久夫 (生活衛生課)

8. ゴルフ場で使用される農薬の年度別調査結果について

水 質 部 ○中村 朋之 高橋 正弘 柳 茂 佐藤真貴子 遠藤 哲男

- 昼 食 ・ 休 憩 -

12:00~13:00

座長 小野 研一 (大気部)

13:15~13:45

9. 農産物中47種農薬の一斉分析法について

理 化 学 部 ○新目 眞弓 加藤 玲子 三浦 正隆

10. 食品汚染物モニタリング調査

- 1971年~1993年のデータのまとめ -

理 化 学 部 ○加藤 玲子 三浦 正隆
 情 報 管 理 部 小室 健一 山本 仁

座長 荒井 富雄 (微生物部)

13:45~14:15

11. 風疹流行予測調査

- 1991年~1995年までの成績から -

微 生 物 部 ○泉 知子 菊地奈穂子 佐藤千鶴子 上村 弘 秋山 和夫
 白石 廣行

12. 宮城県における先天性代謝異常症マスキリーニング

微生物部

○菅原 優子 川野 みち 白石 廣行

座長 葛岡 勝悦(環境衛生部)

14:15~14:45

13. 海水及び殻付きカキにおける大腸菌の消長

微生物部

○上村 弘 秋山 和夫 荒井 富雄 白石 廣行

14. 毒素原性大腸菌O169:H41による食中毒

微生物部

○荒井 富雄 佐々木美江 白石 廣行

Ⅲ 談 話 会 等

1. UJNR有毒微生物専門部会第30回日米合同部会

日 時 平成7年11月15日

場 所 宮城県保健環境センター大会議室

天然資源の開発利用に関する日米合同会議〔United States/Japan Cooperative Program on the Development and Utilization on National Resources(UJNR)〕は、昭和39年に開催された日米貿易経済合同委員会において、情報、技術資料、専門家及び研究施設等の相互活用について日米両国が協力することにより、天然資源の効率的な開発と利用を図ることを目的として設置された。

有毒微生物専門部会については昭和41年に東京で第1回の合同部会が開催されて以来、毎年日米両国で交互に開催されており、第30回を迎えた平成7年の合同部会のうち、細菌及びマリントキシン科学会議が宮城県保健環境センターを会場として開催された。

プログラムは以下のとおり。

10:00 Opening: Welcome to Sendai.

By M. Osada(Miyagi Prefectural Institute of Public Health and Environment: MPIPHE)

Marine toxins: Structures, origins and determination methods.

By T. Yasumoto(Tohoku University)

Utilization of human and marine neuroblastoma cells in culture for detection and quantitation of voltage-gated sodium channel specific toxins.

By R. L. Manger et al. (Seafood Products Research Center, FDA)

12:00 (Lunch)

13:30 Biological activities of gamma/delta-intraepithelial lymphocytes(IEL) after oral infection with *Listeria monocytogenes*.

By S. Yamamoto(Institute of Public Health)

Oral *Listeria monocytogenes* infection and host resistance in mice.

By A. Nakane(Hirosaki University School of Medicine)

Salmonella serotype Enteritidis in the United States, 1994.

By M. E. Potter(CDC)

(Coffee Break)

Outlines of food poisoning outbreaks in Tohoku districts and activities of "Society for Food-poisoning Research of Tohoku Districts(SFPRTD).

By H. Yamamoto(MPIPHE)

In vivo and in vitro detection of *Bacillus cereus* emetic toxin.

By T. Mikami and K. Shinagawa(Tohoku College of Pharmacy and Iwate University)

Hepatitis A virus prevalence in Miyagi Prefecture.

By H. Shiraishi(MPIPHE)

編 集 後 記

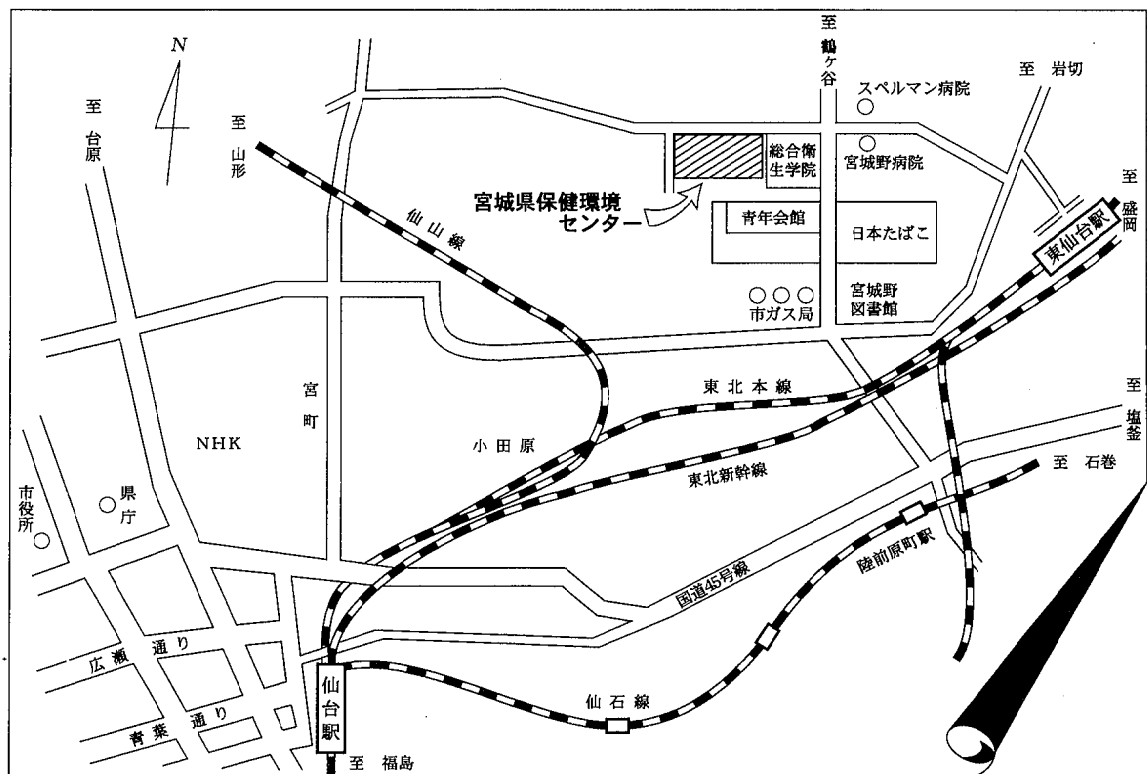
宮城県保健環境センター年報は、当センターが外部へ向けて発信する情報の中で、最も重要なものの1つと考えている。その様な観点から年報の体裁・内容に、少しずつではあるが改良を加える努力を続けてきたつもりである。論文の標題・要旨・著者名の英語による併記もその一環として試みたもので、将来はその範囲を徐々に拡大したいと考えている。

(山 本 仁)

編 集 委 員

- | | |
|----------------|-----------|
| 山 本 仁 (委員長) | 上 村 弘 |
| 小 室 健 一 (副委員長) | 須 藤 由 希 子 |
| 小 野 利 夫 | 加 藤 謙 一 |
| 菊 地 正 義 | 中 村 栄 一 |
| 大 森 勝 郎 | 中 村 朋 之 |
| 高 橋 正 人 | |

宮城県保健環境センター



宮城県保健環境センター年報 第14号
(平成7年度)

印刷 平成8年10月

編集発行 宮城県保健環境センター

〒983 仙台市宮城野区幸町四丁目7番2号

電話 022-257-7181(代)
